

	発行者の略号	東書	教図
	書名	新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して	New 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する
ア 教科・種目 共通な観点	①編集の趣旨と工夫	実践的・体験的に取り組み、生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することを目指している。その工夫として、「家庭分野の学習の意義や大切さが伝わる豊かで楽しい教科書」「実践的・体験的な学びで、生活で生きる知識及び技能が身に付く教科書」「生活の中から課題を見つけ、主体的に解決していく力が身に付く教科書」の3つの基本的な考えで編集されている。	家庭分野に興味・関心を持ち、時代の変化に柔軟に対応できる力を育成することを目指している。その工夫として、「幅広い知識と教養をしっかりと身につける」「自主及び自立の精神を養い、主体的に社会の発展に寄与する態度を育む」「環境の保全や国際社会の発展などに関する現代的な課題を提示し、課題を解決する力を養う」の3つの基本的な考えで編集されている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①身につけさせたい基礎的な知識・技能は「いつも確かめよう」、各章末の「学習のまとめ」に示している。 ②実習例の難易度を示しており、「私のオリジナル」として工夫例を取り上げ、生徒の創造性を引き出すことができるように工夫されている。 ③巻頭に目標が提示され、巻末にはコンクールなどを取り上げた「学んだことを発表しよう」が設定されている。各節には「目標」と「自己評価」欄を設け、自分なりに学びをふり返ることができるように工夫されている。また、「将来を見据えた職業観や勤労観の育成を目指し、「プロに聞く！」コーナーを設けている。	①実践的・体験的に知識や技能を身につけることができるよう、「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」の流れで展開し、定着を図っている。 ②各章末にある「学びを生かそう」では、身につけた知識・技能を生かした課題解決の流れが「問題の発見」「課題を設定する」などで示されている。 ③家庭分野の目標が、巻頭の「私の成長と家庭分野の学習」に提示している。理解度や興味・関心に応じて学習を進めることができるように、発展的な学習内容には「発展」マークがつけられている。また、社会で活躍する姿を想像できるように「センパイに聞こう！」コーナーを設けている。
	(イ) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①「命を大切にすること」…巻末に「防災・減災手帳」があり、災害への備えなどをまとめてあり、持ち運べる手帳になる。 ②③④どの地域でも使用しやすいように、題材が組み替えやすくなっている。また、実習例を豊富にすることで、幅広く選択できるようになっている。	①「命を大切にすること」…環境保全や発展途上国の労働問題などに関する現代的な問題を取り上げ、生徒が持続可能な社会の構築やグローバルな視点で考える活動につなげられるように工夫している。 ②③④どの地域でも使用しやすいように、題材が組み替えやすくなっている。また、実習例を豊富にすることで、幅広く選択できるようになっている。
	(ウ) 内容と構成 ○中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①随所に学習の始めにできる簡単な活動例「やってみよう」「考えてみよう」などを設け、主体的に調べ、他者と協働して比較・検討し、深い学びができるように図っている。 ②「リンク」「他教科」マークを用いて、分野間や教科間の関連を示し、学習の理解が深められるようになっている。 ③生活の課題と実践では、実習例や発表の仕方について具体的に例示し、書く能力やプレゼンテーション能力を高めるように工夫している。 ④「伝統文化」マークを用いて、日本の郷土に昔から伝わる食、衣服、住まいを中心に、写真とともに取り上げている。 ⑤具体的な調理や製作を通して技能が習得できるよう、取り組みやすい実習例が掲載され、身につけさせたい基礎的な技能は「いつも確かめよう」にまとめている。 ⑥各編の導入ページに、「小学校家庭科での学習」をキーワードで挙げ、振り返りながら中学校の学習に入ることができるように工夫されている。 ⑦情報の収集及びその活用を検討し、意思決定するプロセスが、「よりよい商品の選択と購入のための意思決定のプロセス」で示されている。 ⑧色覚の多様性に配慮し、色のみではなく文字を付け足している。ユニバーサルデザイン書体を採用し、字形を半角にやすくしていると表記している。また、見開き2頁に「目標」から「まとめよう」までが縦置されている。 ⑨基本的な実習の技能などを「いつも確かめよう」コーナーにまとめて示している。各編末には、「学習のまとめ」を設け、学習の振り返りができる。	①随所に話し合ったり、発表したりする活動例「やってみよう」「話し合ってみよう」などを設け、主体的・対話的で深い学びができるように図っている。 ②「リンク」マークを用いて、分野間や教科間の関連を示し、学習の理解が深められるように示している。 ③節目ごとに自分の言葉でまとめる「私の学び」や、「発表してみよう」などの言語活動が学習過程の各所に設定されている。 ④「伝統文化」マークを用いて、日本の伝統的な年中行事や、衣食住の生活にかかわる日本の伝統文化を取り上げている。巻頭・巻末部分には行事や暮らしに関するマークなどがまとめてあり、随所に学習を深めるための参考資料も掲載している。 ⑤学習過程の各所に「やってみよう」を設け、実習・製作などの活動例が掲載されている。 ⑥「リンク」マークを用いて、生徒が見通しをもった学習ができるよう、小学校、高等学校との学習の関連を示している。 ⑦商品を選択し購入する意思決定のプロセスの題材が、「買い物の意思決定のプロセス」に設定されている。 ⑧UDフォントを使用し、ルビも大きくしている。また、カラーユニバーサルデザインの視点から、図やグラフの色遣いで色による区別がなく、色の境界がはっきりと識別できるように配慮していると表記している。また、各節目「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」の3ステップで構成されている。 ⑨各編の「やってみよう」「学びを生かそう」「章末のまとめ」が基礎・基本から発展的な題材へと順に記載されている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①全5編「私たちの食生活」「私たちの衣生活」「私たちの住生活」「私たちの消費生活と環境」「私たちの成長と家族・地域」で構成されている。 ②ガイダンスが14頁あり、学習の目標・内容の確認、生活チェックによる振り返りもできるようになっている。 ②「目標」「始めの活動」「まとめの活動」などを全て同じ位置に配列し、生徒が混乱しないように配慮されている。また、課題を意識しながら学習が進められるようにさまざまなマークで表示し、製作や調理などの手順はページの見開きに合わせて左から右に記載されている。 ③各食品の目安量や幼児の体の大きさなどの実物大写真を掲載するなど、写真や資料から視覚的に捉えることができる。重要語句はゴシック体で強調している。衣食住に関する独特な言い回しや名称を、巻末で解説し、正しく理解できるように配慮されている。	①全3編「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」と選択「生活の課題と実践」で構成されている。 ②各編「導入」「やってみよう」「学びを生かそう」「章末のまとめ」で構成されており、編末の「学習の振り返り」では、3つの観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」が示されている。 ②製作や調理などの手順は、縦一列の流れで記載されている。 ②献立シールが巻末にあり、献立を考える際に使用できるようになっている。 ③文章は精選されて文章量を抑えてあり、重要語句は青色の太字で色を変えて分かりやすくしている。また、写真だけでなく温かいイラストを使い、生徒の理解が深まるように工夫している。	
イ 教科・種目別の観点	①実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。	①随所に「活動」を設け、実践的・体験的な活動を通して思考力などの育成を図る工夫がある。実習や生活での実践に必要な必ず身に付けさせたい基礎的・基本的技能を「いつも確かめよう」コーナーでまとめて掲載しているので見返ししやすい。 ①具体的な調理や製作を通して技能が習得できるように、参考例を設けて生徒が取り組めるように手順をわかりやすく示している。	①教科書を通して学習の流れを統一しており、各章の「やってみよう」で実践的・体験的に基礎的・基本的な知識や技能を身につけ、「学びを生かそう」では、身につけた知識・技能を生かして、生徒が工夫しながら課題を解決する学習に取り組める構成になっている。 ①巻末の「生活の課題と実践」に、自分の生活の中から問題を発見し、知識・技能を活用する取組が示されている。
	②「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。	②各編の導入では、生活の営みに係る見方・考え方をキーワードで例示し、多角的な視点から考えたり、判断して決定したりして、問題解決に取り組めるようにしている。 ②吹き出しのせりふは見方・考え方を示唆する内容になっており、生徒が見方・考え方を働かせて思考し、深い学びが実現できるように図られている。	②一連の学習過程の中で関連する内容にマークを用いて示し、生活の営みに係る見方・考え方を働かせることのできる構成になっている。 ②各項目の導入部分「見つめる」では、生活の身近な問題を取り上げた対話場面を通じて、生徒の見方・考え方を働かせて理解を深めることができるようにしている。
	③既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	③巻末の「生活の課題と実践」では、生活の中から問題を見つけて課題を設定し、その課題を解決するために計画、実践、評価、改善する学習過程が示してある。また、主体的・対話的で深い学びを通して、問題を解決する能力を高めるための活動例が挙げられている。 ③巻末に「防災・減災手帳」が付録として掲載されており、家庭分野での災害について学習できるようになっている。教科書と切り離して持ち運びできたり、記入欄に自分や家族と考えたことが記入できるようになっていたりして、生活に活用できるようになっている。	③「学びを生かそう」や「生活の課題と実践」では、問題の発見から課題の解決、次の課題へつなげる6つのステップの流れに沿って課題解決学習を繰り返すことで、課題を解決する力が身につくように図られている。 ③生徒が自分の課題を設定しやすいうように巻末には実践例がまとめてあり、「課題設定のヒント」「私の課題例」が示しており、生徒が課題を見つける参考となる。

	発行者の略号 書名	開隆堂 技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生	
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	地域と社会(国内、国際、自然)とかがわりながら、命と暮らしを大切にすること、自立について学ぶことを目指している。「自立と共生を目指す教科書」「持続可能な社会の実現に向かう教科書」「命と暮らしを守るための教科書」の3つの基本的な考え方で編集されている。	
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法(第1条、第2条)及び学校教育法(第49条・第30条2項)に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①生活の自立に必要な基礎的な理解と技能が定着するように、小課題「やってみよう」などで実践的・体験的な学習活動を通して身につけられるように構成している。 ②各章末にある課題解決学習の「生活にいかそう」「ふり返り」では、思考力・判断力・表現力の育成を目指した学習に取り組めるようにしている。 ③授業の導入で学習の動機づけができるよう、「ガイダンス」は家庭分野のはじめに、「わたしの興味・関心」は学習のまとまりのはじめに、導入課題は毎時間ごとのはじめに、小さな課題を配置している。また、多種多様な職種で働いている人へのインタビュー「先輩からのエール」コーナーを設け、進路のヒントやキャリア教育につながるように工夫され、生活に結びつけるようにしている。	
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①「命を大切に…命と暮らしを守るための資料が巻末にあり、防災の基礎知識と心構えが示されている。 ②③④どの地域でも使用しやすいように、題材が組み替えやすくなっている。また、実習例を豊富にすることで、幅広く選択できるようになっている。	
	(7) 内容と構成 ○中学校学習指導要領(平成29年告示)の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①ガイダンスで主体的・対話的・深い学びがどのようなことか具体的に示されている。随所に生徒同士で対話する活動例「話し合ってみよう」「発表しよう」を設け、深い学びができるように図っている。 ②「他教科」「リンク」マークを用いて、他教科、他分野の見方・考え方も働かせながら、生活を営む視点でそれらの学びを結びつけられるように示している。 ③実践的・体験的な活動を通して言語活動ができるように、実習の際の計画を立てる場面やレポートの作成、発表の場面が学習過程の各所に設けられている。 ④「伝統文化」マークを用いて、日本人としての誇りが育まれるように日本全国各地の伝統文化を掲載し、世界の衣食住にも目を向け、世界的視野から考えられるようにしている。 ⑤学習の途中に学びを理解する小課題の「話し合ってみよう」「やってみよう」「考えてみよう」「発表しよう」などの体験的な活動が取り入れられている。 ⑥「小学校の学び」の表示を用いて、小学校での学習をふり返り、中学校の学習に生かせるようになっていいる。また、高等学校に関連が深い内容は「発展」として扱われている。 ⑦「情報を活用した上手な購入」において、コンピューターや情報通信ネットワークを使用して情報収集したり、学んだことを発表したりして活用できる場面が掲載されている。 ⑧UD フォントやカラーバリアフリーを取り入れ、色覚の個人差を問わず、できるだけ生徒が見やすくなるようなデザイン上の配慮をしていると表記している。また、各項目にある「学習の目標」は冒頭右上にわかりやすく示している。 ⑨学習の目標、導入課題、本文へと展開し、ふり返りで自己評価する形式となっている。学習のまとまりごとに、実生活に即して学習を総合する課題「生活にいかそう」が設けられている。	
(8) 分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①全3編「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」と「生活の課題と実践」で構成されている。 ②製作や調理などの手順は、生徒の視線の流れを考慮してすべて横流れのデザインで統一されている。調理手順の写真は、実際の調理がイメージしやすいように、実習する生徒の視線から見たアングルを掲載している。 ②学習のポイントや情報を、吹き出しや各ページ下に豆知識として示している。 ③幼児の手足の大きさや、食品群別摂取量のめやすを実物大写真で掲載するなど、写真や資料から視覚的に捉えることができる。調理実習の食物アレルギー物質を含む食材については、黄色いマークで示し、明確に伝わるようにしている。		
イ 教科・種目別の観点	①実践的・体験的な活動を通して、基礎的な知識及び技能の習得やそれらを生かした思考力・判断力・表現力等の育成を図るための工夫や配慮がなされているか。	①学習過程は、「1主体的・学習への関心を高める」「2対話的・学習課題に取り組む」「3深い学び…生活に生かす」の3段階で構成している。「深い学び」では、基礎的な知識・技能の定着を図り、思考力・判断力・表現力を使ってまとめる活動例「やってみよう」「話し合ってみよう」などが設けられている。 ①「調理法Q&A」が設定され、科学的根拠を具体的に掲載している。	
	②「技術の見方・考え方」や「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせた学習となるよう、内容構成に工夫や配慮がなされているか。	②ガイダンスで生活の見方・考え方について示してある。 ②生活の営みに係る見方、考え方を生かした学習活動「生活にいかそう」「ふり返り」が各節の終末に設定されている。	
	③既存の技術の理解を図る学習過程や、生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し解決する力を養う学習過程が取り上げられているか。	③巻末に「生活の課題と実践」についてまとめて掲載しており、生徒の日常生活から問題を見出し、課題を設定できるように6つのステップに沿った学習過程やまとめ方、実践例が挙げられ、主体的に様々な解決方法を考える手立てが示されている。 ③課題の実践例に、「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」の各編の学習内容のかかわりを示している。 ③過去の災害の経験から学び、生活を見直すことができるように「安全」「防災」マークが教科書全体を通して随所に触れている。巻末には8頁にわたり、防災についての基礎知識と心構えをまとめてあり、防災意識を高めている。	